

京の大人の英知、注入マガジン

京都 CF

[シー・エフ]

BACK ISSUES

お近くの書店でお求めになれない場合、ご希望の号数と部数をお電話もしくはファックスにてフェイム事務局までお申し込み下さい。在庫の確認をさせていただきます。その後、代金と送料を切手でお送りいただければ、到着し次第ご送付いたします。

No.245

2004.6th



特集
老いも若きも、
喫茶事情

定価350円
(送料100円/1冊の場合)

No.244

別冊京都CF!



京都ブランド vol.5

訪ねやすい
京の町。

定価800円
(送料100円/1冊の場合)

No.243

2004.5th



特集
京都は今、
楽ちん酒場。

定価350円
(送料100円/1冊の場合)

No.242

2004.4th



特集
このひと間が、
もはや「旅」である

定価350円
(送料100円/1冊の場合)

年間定購価格

1年間分の「京都CF」を銀行引き落としにて、4000円(消費税200円)で予約購読していただけます。お電話もしくは巻末ガキにてご連絡ください。改めてお申し込み用紙をお送りいたします。

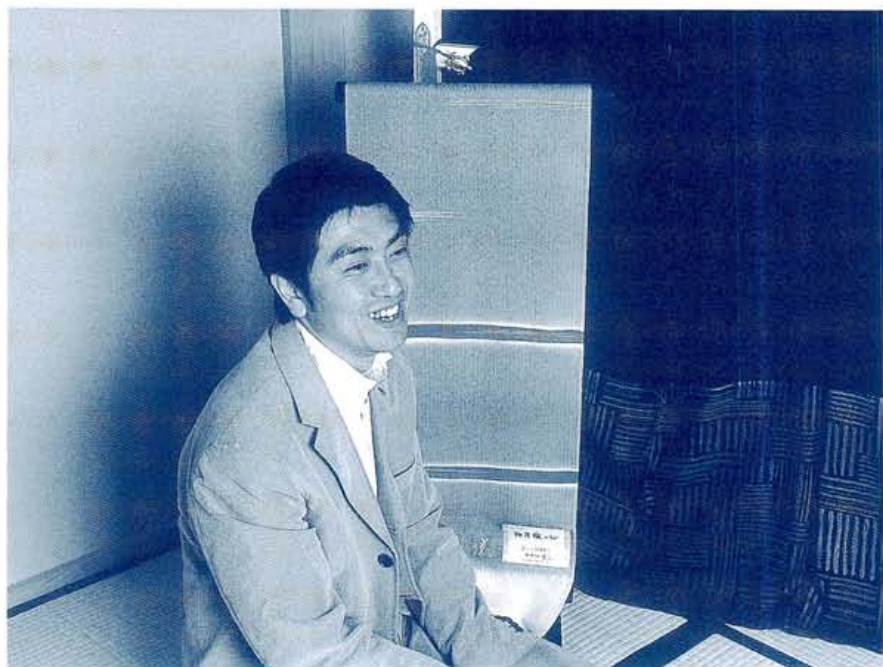
フェイム事務局

〒604-8134 京都市中京区六所通丸太町九丁目大塚六所ビル2F
TEL. 075-256-7558 FAX. 075-256-7557

ホームページからも申し込みできます。

<http://m21.or.jp.fame>

こつそり部屋の本棚におきたくなるバックナンバーです。



和装監督

毛利 泰巳

MOURI YASUMI

【プロフィール】'66年生まれ。家業を継ぐ気はなかったが、父の死を機に翻心。大学卒業後は織りと染めのいずれにも関わるネクタイ製造会社に就職。百貨店まわりの営業を経て、同家の七代目として和服のブランド「安治郎」を設立。現在に至る。

"きもの"を着ている時ぐらい、 走らなくても、いいじゃないか。



ロゴの漢字を英字に変えれば、ドメスティックブランドの企画書としても十分通用しそうな企画書。できあがった反物と共に、糸・染め・織りなどなど、この企画書と完成品の間に、監督業としての苦勞が凝縮されている。



その企画書の次の段階がこの図案。同社謹製の「お召し」という生地は、1837年まで何重にもあった徳川11代将軍・家齊が特許に愛用したことでその名はさらに世に定着したという。ちなみに三代目・毛利安治郎は1833年生まれ。



「38歳のボクと同年代の人にこそ着て欲しい」。先頃の展示会を行った七代目が立ち上げたブランド「安治郎」の商品、「月・山・雲」をモチーフにした写真の訪問着や、同じく干支をモチーフにした帯の他に、小紋もある。

京 TIAN I.D.

キョーティアンアイディ

The 115th person

「その肩書、面白い。良いですね。自らの職業をありがちな言葉ですが…と前置きして「呉服デザイナー」と称した後、「和装監督」という職業名を提案すると、毛利さんは言った。呉服メーカーとは生地・染め・糸・紋章…、着物に関わるさまざまな工程の全てを監督する者だからだ。

弊誌でも洋にアレンジした和装小物や服については何度も紹介してきた。さらにここ数年、若年層が夏場には浴衣姿で祇園祭や花火に出かけるシーンが飛躍的に増え、アンティーク着物の需要が増えている。和装業界も各方面の努力の成果が遂に出始めたか、と思うのだが、その件に関してはトーンはあまり高くない。「確かに浴衣は毎年買い換える水着感覚になってますよね。でも着物にはイマイチ繋がってはいない。アンティーク着物と言っても洋服流に言えば「安い古着」ですからね。大きく業界を捉えれば良い傾向だが、小遣いレベルで買える水着や古着と着物の間には、今なお乖離がある。現状を評して珠玉の一言を毛利さんは発した。「痛し痒しです(笑)。でも着物を着てもらう事に関しては大歓迎です」。

「民族衣装が100%シルクというのは、贅沢な国ですよ」。考えれば古来、綿素材の和服も存在したわけで、今に続く同業界の下降線の原因の一端は「普段着の着物」を切り離した事にある。

毛利さんのブランド「安治郎(やすじろう)」は、糸商から織屋へステップアップしていった同家の三代目の名である。糸商から、織や染めも手掛けるようになる先駆けとなった中興の祖である。糸を言わばドレッド状にして織る、独特のシャリ感を持った「お召し」と呼ばれる生地がある。この生地は今に続く同家の得意技となった。

それだけでなくも廉価・安価な洋服にニーズが集中する現代だが、最近、普段着の着物から和装の世界に入ってくる社会人女性が増えていると言う。毛利さんは活路をそこに見出す。「着方はおろか、たたみ方すら解らへん、ちゃっちゃと着替えられへん、走れへん(笑)」。着物のデメリットを挙げれば確かにキリがない。「逆に着物を着た時は走らなくてもいいんです(笑)。「洋服を着て歩いてても声かけられへんけど、和服を着て歩いてたら声かけられて嬉しかった」という方もいますし(笑)。着物ほどせかせかした日常を忘れられる衣服はありません」。

親子というよりも師弟に近い母が六代目。京都にあって「呉服屋のボン」と言えば贅沢三昧の羨ましい出自を連想するが、「(精神的にも金銭的にも)甘やかされた憶えはないです(笑)」と言う。稼業柄と言って無理に着物を着ることもない、だがその良さは誰よりも知っている。我々として変わらない目線を持つ彼がつくる着物は、今までより、少し身近になっていると思うのだ。

Information

■「安治郎」発表会■

開催日：平成16年7月3日(土)・4日(日) 開催時間：10:00~18:00

開催場所：「岩神座」京都市上京区浄福寺通上立売上ル大黒町(構成館向かい)

問い合わせ：(株)西陣織洗 (075-492-5050) ※(株)西陣織洗主催「優美展」の中で発表会が行われます。